



1. 新年度も早一月が過ぎました。

桜若葉がみずみずしい季節となりました。新年度も早一月が過ぎ、子どもたちは新たな学年での生活を軌道に乗せ、目標に向かってさまざまな取り組みを進めています。

さて、昨年度から、本校では、子どもたちの「非認知能力」に着目し、その能力を高めるための授業改善に取り組んでいるところです。本時の“めあて”を提示するとともに、その時間に“身につける力”(人と関わる力など)を子どもたちと共有し、授業をおこなっています。「わかった!」「できた!」「なるほどー」と子どもたちの呟きが聞こえる授業、自分で考え、自分の考えを自分の言葉で表現する場面のある授業、周りの人たちとともに課題を解決する授業をめざすとともに、学習指導要領に示されている「学びに向かう力、人間性等」の涵養に努めてまいります。

また、子どもたちのよい点や進捗の状況などを積極的に評価し、個人懇談会や学級懇談会にて直接お伝えしたり、通信や通知表などを通して確認していただき、学校の教育活動を通じて成長した子どもたちの姿を共有できればと存じます。

そして、教職員も子どもたちと同様に、仕事をしながら学び、全教職員が協力して様々な教育課題を解決し、失敗を恐れず挑戦し続ける教職員集団をめざし、日々努力しております。真の意味で切磋琢磨、相互支援ができる組織(チーム)になるよう引き続き努力してまいります。

2. なぜ、日本を選ぶのですか？

最近読んだ本に、日本で働きたいと、熱望する海外の若者たちに「なぜ、日本を選ぶのですか？」とインタビューしたところ、「自分のことより、人のことを考える国民は日本人以外いません。礼儀正しい日本人の心に触れながら仕事をしたいです。」との回答があったというくだりがありました。

その背景には、2020年のオリンピックにおいて、延長戦の末、金メダルを獲得した柔道の選手がガッツポーズで喜びを表現することなく、相手選手に歩み寄り称えた姿や、2021年マスターズで優勝した松山英樹選手のキャディを努めた早藤氏が帽子をとってコースにお辞儀した姿、二刀流で有名なロサンゼルス・エンゼルスの大谷選手が四球を選び、一塁へ向かう途中で小さなゴミを見つけさっさとかがんで拾い、左ポケットに入れる姿などが映像で流れ、相手を重んじ、互いに気持ちよく過ごすことを大切にする文化や、とくに「自己犠牲」の精神文化が海外から高く評価されているとのこと。

戦前・戦後を通じて日本の教育界最大の人物と言われる森信三は、学校職場の再建三大原理「時を守り 場を清め 礼を正す」を提唱しました。まさしく、日本が海外から高く評価されている重要な部分だと思えます。時間を守る、そうじや整理、整頓ができる、あいさつや返事ができるなどの基本的な生活習慣が身につけている学校は、子どもたちが互いに学び合い、刺激し合い、成長し合うことができる学校だと思えます。これからも、海外からも高い評価を受けている日本の強みである「相手を思いやる・相手を敬う気持ち」を大切にする心を育ててまいります。